



私たちは聴くことを大切にします。

ESの文字を左右対称に合わせることで、対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い聴くことを表現しています。

NPO 法人えんばわめんと堺/ES

NO.37 2021年4月発行

も く じ

- P2～3 エンパワメント・ファシリテーター研究会 事業報告&Vol.8
- P4～5 HRプロジェクト 活動報告
- P6～7 SAY（性・生）の会 活動報告
- P8 中区子育てひろば
- P9 子どもの権利条約関西ネットワーク
- P10～15 ★今だからこそ みんなで考えよう 講演会★ 報告
 - *渡 剛さん
 - *上野千鶴子さん
 - *平野裕二さん・富田久子さん
- P16～17 スタッフ研修報告
- P18 J-Coin 助成金事業報告
- P19 CAP 活動報告・お知らせ
- P20 事務局より



イラスト提供：ふわふわ。り

エンパワメント・ファシリテーター研究会 初オンライン 開催

Vol.7 1月開催は初オンライン開催で、

「なぜエンパワメントなのか」～みんなと子ども～

と、題して、中小企業診断士 リー・山根・清実さんと、北野真由美のトークセッションを実施しました。

リーさんには、3年前より、堺市のNPO 法人個別サポートで、NPO が継続して活動していくために、それぞれの課題に応じて専門家の立場からサポートし、運営を見直し、未来への発展を一緒に考え、アドバイスを頂いていました。

えんぱわめんと堺がいつもリーさんに言われていたのは「もったいない」。

20 年来、多くのワークショップを展開し、子どもたちの声を聴き、人権を大切に考えているのに、持ち味を発揮しきれていないのでは？と、問題提起をされました。

どうしたら、もったいないままで終わらせず、ES のこれからに繋いでいけるかを具体的に、一緒に考えて頂きました。



団体としていい時ばかりではないし、うまくいかない時や、課題が発生した時もつながっていることが信頼である、えんぱわめんと堺は、その信頼が確立されていると。

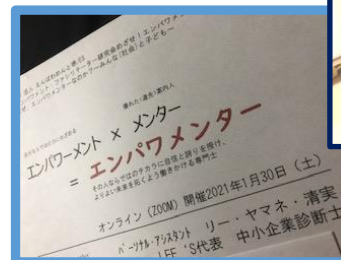
コロナや AI の時代でも、人との関係はなくなるらない、その中で心の問題が問われるときに、心が養われている人とそうでない人の解離はどんどん大きくなる。

勝つか負けるか、出来るか出来ないかで社会が人を測ろうとするとときに、わたしたちの活動は益々大切であるとお話されました。

「コロナ後」の社会を裾野からよりよくする

大事な役割が**エンパワメント**だという言葉がわたしたちを後押ししてくれた気がします。
肯定的なメッセージをたくさん受け取りました。

(しおざき)



エンパワメント・ファシリテーター研究会 vol. 8 めざせ！エンパワメンター

5月から Vol.8 がスタートします。

子どももおとなも、さまざまな可能性、力を持っています。本来もっている力をふくらます、エンパワメントの関わりでファシリテートをしていく“エンパワメンター”をめざすために、ともに学びましょう！

興味のある方、大歓迎

申し込み：NPO法人 えんぱわめんと堺/ES

E-mail empowerment@lily.ocn.ne.jp

Tel 072-230-5588 Fax 072-230-5589

参加費（一回につき）一般：3000円（学生：2000円）賛助会員：2000円 正会員：1000円

Vol.8 は、5月と7月に講師をお招きして開催です！

①エンパワメントで力を取り戻す～社会とわたし～

5/22（土）14：15～16：30 堺市産業振興センター（旧じばしん）セミナー室5

講師：市場恵子さん（社会心理学講師・心理カウンセラー）&
大塚愛さん（岡山県議会議員・大工）

総会イベントです

②自分の力にめざめるエンパワメンター～あなたと子ども～

6/30（水）13：30～16：00 堺市総合福祉会館 第1会議室

③今だからこそエンパワメンター～みんなと子ども～

7/25（日）9：30～12：00 堺市総合福祉会館 第1会議室

講師：栗本敦子さん <えふらぼ>

④発見！子どもの力とエンパワメント～多様な子どもたち～

8/31（火）13：30～16：00 場所 堺市内

⑤あなたもエンパワメンター ～やれるできるがんばる～

9/30（木）13：30～16：00 場所 堺市内



ファシリテーター&司会
代表理事 北野真由美

HR(Human Rights)プロジェクト

昨年度の終わり頃から新型コロナウイルス感染症の影響で実施予定だったワークショップが次々とキャンセルになり、この状況の中で今年度のスタートはどうなるのだろうという懸念があった。例年より実施回数は少なくなったものの、新規依頼の小学校もはいる、また長年継続している学校も予定通りで、この社会状況の中、学校現場でワークショップができることが本当に有り難いと思った。

複数の先生たちから、「こんな時期だからこそ来てもらいたい。子どもの声を聴き、子どもたちの力を引き出してほしい」と言われたことも嬉しかった。

「コロナ禍で子どもたちがどんどん元気がなくなってきている」「ますます自信がなくなってきている」「子ども同士がフェイス to フェイスで対話する機会が減ってきている。コミュニケーション力も低下していると感じる」「気持ちが出せなかったり、自分の考えがなかなか言えない子どもにどう向き合ったらいいのか…」などの声もたくさん聴いた。やはり、新型コロナウイルス感染症が子どもの心とからだに多大な影響を与えているということを改めて考えさせられた。

おとなも家にいる時間が増え、しんどいことが増えている。おとな対象のワークショップでも、「感情について…特に感情の扱い」の要望が多かった。おとなも不安やイライラの気持ちを感じる中、安心な場でその気持ちを共有し、「そうだね～」と聴いてもらえたことで、参加してよかった、スッキリしたという感想をもらった。

子ども対象ワークショップでは、「ふだんあんまり手を挙げて意見をいわないけど、今日はいっぱい言えて自信がついた」「今まで自分の意見がこれで合ってるのかな？間違ったら恥ずかしいなって思ってたから言えなかったけど、人と違っていいって分かったからこれからは自信をもって言うってみる」「今までは友だちに合わせてばかりだったけど、これからは自分の気持ちを大切にしようと思った」など、肯定的な声をたくさん聴いた。

子どもには力がある！このことはいつもいつも実感すること！

これからも、子どもたちの力が発揮できる場や機会を提供していきたいと思う。

By ありちゃん





教育関係 (学校園、企業 など)	—子ども対象(クラス単位)— <豊中市> ●西丘小学校(1年生～6年生 全学年20クラス) 1年生3クラス 「“聴く”って? たいせつなきもち」 2年生4クラス 「一人ひとりの境界線」 3年生3クラス 「コミュニケーション ～自分も相手も大切にする関係作り～」 4年生3クラス 「わたしのサポーター」 5年生3クラス 「自分で考えて、判断して、行動する」 6年生4クラス 「うわさのしくみ」 <柏原市> ●国分小学校(4年生3クラス) 「感情と境界線」 <大阪市> ●望之門保育園(年長児1クラス) 「感情の扱い」 ●長吉小学校(2年生3クラス) 「感情の扱いとすてきな頼み方」 —おとな対象(教職員・PTA・企業)— ●豊中市立西丘小学校PTA地区懇談会 「気づけてる?どうしてる?もやっとしているその気持ち」 ～今知っておこう自分のこと～ ●株式会社学研エデュケーショナル ＊リモート研修 「一人ひとりのエンパワメント」～お互いの力を高めるために～
子育て支援関係	—おとな対象(一般)— ●堺市西区子育てサロンおたまじゃくし 「イライラしたときどうする?」～イライラさんと上手につき合う方法」 ●中区ひろば子育て講座 「アンガーマネジメントを学ぼう!」
その他	—子ども対象— <大阪狭山市> ●まなびーば sayama(中高生)「自分自身の感情と上手につき合おう♪」
	*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったワークショップ ●中区子育てフォーラム 「アンガーマネジメント」 ●箕面市立東小学校(1年生1クラス、3年生1クラス)



2020 年

- 7 月 10 日 大阪市立長谷川中学校 1 年生～3 年生
「性と生きるについて考える～自分も他者も尊重できる関係づくり～」
- 15 日 大阪狭山市立公民館ティーンズ勉強会「男子も女子も自分のために生と性の正しい知識を持とう」
- 24 日 認定 NPO 法人こどもの里 「境界線ワークショップ」
- 8 月 25 日 堺市中区子育てひろば 「わたしのからだはわたしのもの」
- 9 月 2 日 泉南市子ども総合支援センター 「障がいのある 子どもと 性について」
- 16 日 西野田工科高校定時制「性の健康教育・境界線～たいせつなからだ気持ち～」
- 23 日 大阪府立高槻北高等学校 2 年生
「人と人とのつながり・コミュニケーション～自分も相手も大切にしよう性・生～」
- 24 日 大阪府立長野北高校 3 年制
「10 代の性・生をともに考える～デートDVと性感染症・予期しない妊娠～」
- 28 日 堺市 子育て支援おたまじゃくし 未就園児の保護者「幼児期からの性教育」
- 10 月 1 日 大阪府立福井高等学校 2 年生
「恋愛関係に上下関係が忍び込む時 / デートDV」
- 15 日 大阪府立長吉高等学校 1 年生
「性・生を考える」～人と人とのよりよい関係のために～」
- 11 月 8 日 デイサービスにこにこ庵 おとな「つきあう。結婚。性の関係性」
- 10 日 大阪市立長谷川小学校 1～6 年生「一人ひとりの大切なからだときもち」
- 27 日 大阪府地域生活定着支援センターよりそいネット大阪 支援者/研究者/学生
「障がいのある子どもたちへ 性の健康教育をどのように伝えるのか？」
- 12 月 1 日 大阪府立春日丘高等学校定時制 1～3 年生
「デート DV を考える～暴力にならないために、対等な関係性とは？」
- 2 日 大阪府立平野支援学校高等部 1～3 年生「こころとからだ」
- 10 日 大阪府立布施高等学校定時制 2・4 年生「男女のつきあい方」
- 25 日 大阪府立堺支援学校教職員 「同僚性とは」

2021 年

- 1 月 27 日 大阪府立寝屋川高等学校 1 年生「性と生きるについて考える」
- 27 日 大阪府立平野支援学校高等部 1～3 年生「こころとからだ」
- 2 月 1 日・2 日 私立四天王寺小学校 1～6 年生
- 4 日 「たいせつなからだ気持ち」各学年に応じた性のプログラム
- 27 日 放課後等児童デイサービスこころん小6～高2
「性の健康教育 ～大切なからだ気持ち～」
- 3 月 9 日 私立清教学園中学校 2 年生
「10 代の性・生をともに考える～自分も相手も大切にするには～」

合計 おとな 6 団体 224 人／子ども 14 校・3 団体 33 ワーク 1402 人

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施中止となったワークショップも数校ありましたが

1 団体オンラインでの講座開催を除き、全て感染予防対策をした上で、直接対面のワークショップを実施させて頂きました。学校・先生との協力関係の上で、どのようにしたら子ども達の性の学びを保障できるか？

試行錯誤しながら、進めてこられたことは今年度の大きな成果だと感じています。

2019年度と比較すると団体数では約90%の事業規模ですが、人数としては約60%でした。

大きな規模の学校ほど、中止となった割合が多かったです。

性の課題は、コロナ禍においても無くなりません。

親密な関係のコミュニケーションは逆に増えていたかもしれません。

性教育の枠は、学校の授業の中でほんの1コマ2コマだけというところが多いと思います。子ども達の学ぶ機会を奪わない為に、様々な工夫をして来年度もワークショップを届けていきたいと思っています。



2020年度に、新しくつながった依頼先での講座内容を紹介します。

◆障がいのある成人の方のデイサービスでのプログラム「つきあう・結婚・性の関係性」

まずは、基本的なからだの話から【プライベートゾーン】【自分のからだはじぶんのもの】

【食事・睡眠・排泄・清潔】を自分で管理できることが性の自立につながることで、ここができない時は、ヘルプしてもらう権利が当たり前にあること。【いやな関わりや、接触にはNO！】と断ることができること。

「つきあう」と「結婚」はどう違うのか？ 参加者みんなで意見を出し合いました。

そうすると、結婚って幸せ？どうなったら幸せなの？という話になり、幸せの価値観がそれぞれちがいました。結婚経験のある人から、結婚後、家族の世話がが増えて幸せでなくなった。とデメリットも出てきました。

参加者から「今日の話、今まで習ったことなかった」「付き合うと結婚はちがうんだね」「でも、女の人にNO！とは言にくいよね」「つきあいたいけど出逢いがない」「私は結婚して2人で家にいます、それだけで幸せです」「今日の講座でいろんな話をしたことは、すごく楽しかった」などの感想がありました。

支援者と利用者さん、関係機関の方とで共に性の学びを共有したことは、話をするきっかけ作りになったと思いますし、ハラスメントが起きない環境を作る上でも大事。なにより、障がいのある方の日常生活において性の問題は切っても切り離せないものであり、支援する中でも当たり前に出てくる問題です。性を人権の問題としてしっかりとらえていくことが、全ての人の幸せにつながっていくと実感しました。



◆一般社団法人よりそいネットおおさか シャバの空気をおいしくする会

刑法の「性」に関する犯罪の規定が適用され、犯罪として扱われるケースがあります。

実刑判決が宣告された場合には、刑務所に拘禁されることになりますが、多くの場合は釈放されます。

法務省は実刑を受けた人に「性犯罪再犯防止指導」を実施し、また保護観察となった人々については、「性犯罪者処遇プログラム」を実施してきました。しかし、これらのプログラムはあまり良い評価をされていないようです。例えば刑務所の中では社会での人間関係やコミュニケーションを学んでも、実践する場がないのです。自分の名前ではなく番号で呼ばれる刑務所の中で、一人ひとりが大切だということは伝わりにくいですね。軽犯罪で捕まる人の中には、発達の課題があったり、知的に脆弱だったり、認知にゆがみがあり正常な判断が難しい方が多くいます。

その方たちが、シャバに出てきたときに寄り添い支援する団体が「よりそいネットおおさか」です。障がいのある子ども達や若者にどのように性の健康教育を届けているかのエッセンスをお話してきました。どの人も必要な時に、性の学びに再びアクセスできるように、様々な機関と協力し、その機会を保障する場を設けていきたいと強く感じた講座でした。みなさんと共に考えていきたい新たな課題を見つけました。（はしもと）

中区子育てひろば

2020年3月、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、ひろばは2週間の閉室になりました。2月末の急な決定で、すぐに開室できると期待していたのですが、少しずつ閉室が延びて結果、5月末までの3ヶ月間の長期の閉室になってしまいました。

例年3月は引越しや入園する方が新生活に向けて不安な気持ちを話してくれたり情報交換している時期でもあるのに、自粛で家から出にくく準備もできにくい状況を思い胸を痛めたり、急な閉室で、日々来室する事を楽しみにしている利用者さんがガッカリしているのではないかと、小さいお子さんと過ごす保護者さんの不安を思うと辛く、ひろばのできる事は何だろう、とひたすら考える日々を過ごしていました。

6月より、換気やこまめな消毒、検温や手洗い消毒をしてからの入室、1日4枠、各枠定員3組の予約制と、感染防止を徹底してひろばを開室する事ができる事になりました。再開当初は、年齢別の事前予約のみの利用受け入れで、知らずにひろばに来てくれた方を断らないといけないなど、当たり前前が当たり前でできなくなり、私たちスタッフも対応に戸惑ったりしましたが、ひろばのコンセプトである「一人じゃないよ!」を大切に考え、自粛を余儀なくされる今だからこそ、ひろばを安心して利用していただきたい、その思いでスタッフ皆で考え、子育て支援課のひろばHPにスタッフ一人一人のコメントをのせて利用者さんをお待ちしました。

開室間もない時期は利用者さんがいない時間帯もありましたが、ひろばの入れ替えの度に換気消毒をして感染予防を徹底している事や、少人数の予約定員制で安心できる事が周知され、少しでも利用しやすいように各枠の年齢別利用をやめて当日予約も可能とする事で、少しずつ来室が増えて、今では予約が取りにくい位になっています。

ひろば活動6年目の今、新型コロナウイルス感染症はまだ収束していなくて、以前のような自由に利用できるひろばにはなっていないけれど、子どももおとなも一人じゃない、しんどい事、楽しい事を共感してホッと安心したり、エンパワーできる場づくりを、利用者さんと一緒に創っていきたいです。

(北村・船越・城庵)



子どもの権利条約関西ネットワークの活動から

11月14・15日「子どもの権利条約全国フォーラム」が開催されました！今年は富山県南砺市開催で、1年前から現地を訪問し、参加することを楽しみにしていた子ども達&おとな(わたし)。しかし、コロナ禍で叶わず意気消沈気味でしたが、今振り返れば遠い昔のようなGOTOキャンペーンに乗り、大阪市内の20名入れる宿泊先を探し出し、サテライト開催することが出来ました！1日目の基調講演は尾木ママ、トピックの中で「佐賀県の弁護士集団が、学校のブラック校則の中には子どもの人権侵害の校則がある、として裁判所に申し立てした」というところは、大阪の子ども達も身近な話題に紐づけて、興味深く聞いていましたね。



約20人分のハンバーグ定食作り！ウキウキが止まらない

カベ1面のスクリーンに話かける子ども達

そして、2日目は数チームが各団体の活動状況とコロナ禍での学校や日常生活を発表しました。大阪からは今年度完成させた「なんでやねん！すごろく」の紹介に合わせて、子ども達が経験した生活の中での「なんでやねん！」と突っ込みたくなる事例を発表しました。

【校長先生の話が長すぎる】【親にLINEのトーク内容を見られる】

【しつけしつけ、とぼくのこいつもたいてくるお父さん】

【自分らにはろうかを走るなどゆわれるのに、先生が走っている】

【かぜでしんどくても、熱がないからと言って保健室からかえされる】

【自分はやってないのに「どうせお前がやった」と決めつけられた】

【たまの休日に休みたいのに勉強しろとうるさく言われる】



ZOOMで繋がっている、全国の子どもチームから大きな共感と頷く声が響きました。

子どもの権利条約を知ること、日常の権利侵害に気付くことが出来、一人ひとりの幸せに向かって生きることを考えるすごろく仕立ての凄い奴！ぜひ学校の道徳の副教材に推薦してほしいです



今年度完成させた「なんでやねん！すごろく」を携えて、阪南市・泉南市・堺市・富田林市・大阪市・尼崎市などの学校や子どもの居場所へ出向きました。けんりを知って勇気がわいてきた。もっと早く知りたかった。自分の不登校になった原因を話したい気持ちになった。など子ども達の声を聴かせてもらいました。

2021年度は川崎で全国フォーラムが開催されます。ぜひこの活動にあなたも参加しませんか？子どももおとなも大歓迎！

あーみん

ひとり親家庭がそれぞれに合わせた豊かな人生を送るために
～ひとり親家庭の子どもの学習支援の現場から見えること
NPO 法人 あっとすくーるの渡 剛さんを招いて

堺市男女共同参画推進講師派遣事業

2020年12月20日（日）NPO 法人 あっとすくーる 渡剛さんより、渡さんご自身の子ども時代の家庭内状況から現在の渡さんの学習支援の活動に至るまでの経緯や、これまで渡さんが関わってきた子どもたちの多様なニーズから見える支援の落とし穴についてもお話をして頂きました。

「このままでは、助けを得ることは期待できない」

「日本では貧困の連鎖を切り抜けられるかは運次第」

こういった危機感から、渡さんが学習支援の現場で直接関わるひとり親世帯の子どもたちや母親、そして、活動を共に作るボランティアの学生、そして地域へどのようなアプローチをしているのか、お話をお聞きしました。

未婚のひとり親家庭で育った渡さん、ひとり親が「ひとり親」になった理由には「死別」「離婚」「未婚」など様々な出来事がありますが、渡さんは「自分はたまたま運が良かった」と話します。2018年末、「所得税の控除を未婚のひとり親に適用すると未婚の出産を助長することになるのでは・・・」このようなニュースが流れました。

「ひとり親」になったことに対しての子どもへの感じ方は、子どもによって違います。ひとり親家庭の子ども自身の家庭内での体験や経験、ひとり親になった後の変化などの体験や経験の他に、このような社会的偏見や差別が重なることにより、ひとり親になった理由に社会が優劣をつけることで子どもたちは何を感じるのでしょうか。

「自分がこんなに不幸な目に遭わないといけないのは、ひとり親家庭だから」と話す子ども。

「離婚して家は狭くなったけど、もう父親に怯えなくていいから今の方が幸せ」と話す子ども。

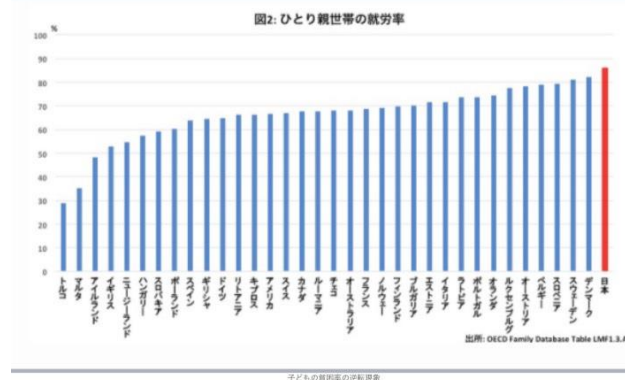
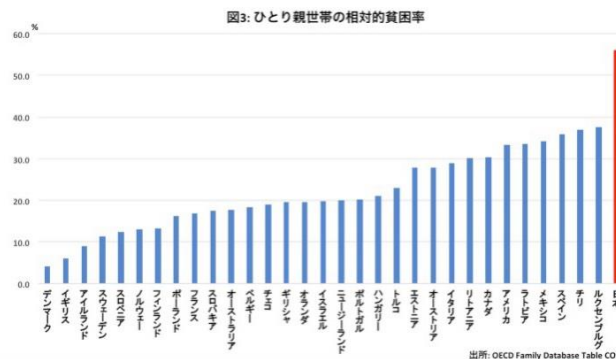
多様な子どもを支援することで見えてくる様々な課題に対して、子どもたちの「第二の家」として一般の塾ではカバーできないような生活面のサポートも行うことで「成果を出すこと」よりも「関係を切らさない」支援をしている渡さん。必要に応じて地域と連帯しながら、子どもたちが学習面以外の子どもの困りごとにも気軽に頼れる関係づくりをされています。

OECD の比較データからもわかるように（右記データ参照）、個人の努力では、どれだけ懸命に働いても貧困の状況下から切り抜けられないのが日本社会の構造だと渡さんは言います。

今回、渡さんのお話を聞き、私自身、新聞やTVなどの「ひとり親世帯」「子どもの貧困」「学習支援」といったトピックが以前よりも、目に留まるようになりました。昨年から続くパンデミックの状況下において、「ひとり親世帯の支援」にメディアのスポットライトが当たることも以前よりは増えてきています。しかし、ひとり親家庭の現状はどうでしょうか。ひとり親家庭の子どもの貧困率はひとり親家庭でない子どもの貧困率の3倍を超えています。

新しい年度が始まり、私自身の活動の場から見える母親や子どもが抱える社会課題に対して、それぞれのニーズに耳を傾け、人と人で声を掛け合うことからスタートさせたいです。今回、様々なデータからも浮き彫りになっているように、日本の社会的構造そのものを変革させ、貧困を社会全体で支えていく仕組みが必要です。近年、良い意味でも悪い意味でも、社会構造の改革のスピードや手法は変化してきています。そして、デジタルやオンラインの活用がどんどん拡大していく中、**新たなインフルエンサー的思考で市民が共に力を合わせて社会構造を変革できる未来を創ることが**できることを期待します。

(あいのっち)



子どもの貧困率の逆転現象

緊急事態宣言が発動されて、「ZOOMでハイブリッドセミナーを開催することになった！」ここから、ハイブリッドセミナーを開催するミッションが始まりました。会議でZOOMを利用したことはあっても、講師上野千鶴子さんとはオンライン、参加者はオンラインと会場。いわゆるハイブリッドセミナーを開催するには準備物に何が必要なのかネットで調べ、店舗へ行って相談し、自宅で何度もリハをおこないながら、もっといい方法があるのではと、また、調べ、買い物をして、ネット環境のよい会場を探し、開催にこぎつけました。すぐくオンラインセミナーのやり方を知っている人なら、大したことはないことも、中途半端な知識ですものにとっては本当にできるか？数日前からピリピリ状態に、そして当日、上野千鶴子さんと接続する段階になった時にパソコンがフリーズ状態に、新たにセッティングし直す事態に、それでも、パソコンを変えてから、本番には間に合い順調に開催し終了することができました。

<セルフでハイブリッドセミナーを開催する時の注意事項>

LANケーブルで接続できる環境。主催側はホストとホスト共有する人と2台のパソコンを準備。特に処理能力が高いパソコンを1台は用意する。周辺機器の相性があるので事前に接続して作動するか確認する。あとは度胸です(笑)

開催するたびに違うトラブルがおきるのもオンライン開催のだいご味ということで、withコロナの時代、オンライン講座に挑戦していきましょう。やってみたら誰でもできるよ！ (ぴーちゃん)



日常生活の中に潜む‘自分らしさを阻むジェンダー’

上野千鶴子さん（社会学者・東京大学名誉教授）

地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業

参加して下さった方が学びを深めブログに残してくださいました。

オフィス今岡さんのブログより転載させていただきました。

日常に潜むジェンダーを解きほぐす～上野千鶴子先生の言葉から

2021年2月13日（土）上野千鶴子先生の講演は、時勢によりオンラインとなった。

が、先生を独り占めしているような気分になれたのも事実で、「オンライン、ありがとう！」でした。

「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」 遥洋子著：ちくま文庫（2004年）

関西では馴染みのあるタレント、遥洋子さんの発言が他の人と違って面白く、気になっていた。その遥さんが東大で学ぶ先生・・・どんな人なのだろうと興味を持った。

社会学者であり、フェミニスト、東京大学名誉教授。

その先生が大きな話題になったのは、「バズった」とご本人がおっしゃっていた、2019年4月東京大学入学式での祝辞である。

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message31_03.html

取り上げられることが多かったのは、

「・・・あなたの恵まれた環境と能力を恵まれない人を貶めるためにではなく、恵まれない人々を助けるために使ってください」というフレーズだった。

しかし、その後こう続く。

「そして強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きてください。女性学を生んだのはフェミニズムという女性運動ですが、フェミニズムはけっして女も男のようにふるまいたいとか、弱者が強者になりたいという思想ではありません。フェミニズムは弱者が弱者のままで尊重されることを求める思想です」

「ノブレスオブリージュ＝高貴な人にはそれに応じた義務があるという道德観」と捉えられることが多かったそうだ。

全文を読むと、先生のメッセージがそれだけではないことに気づく。

今回の先生の言葉でハッとしたことはいくつもあったのだけど、印象に残った2点を主観として記したい。

1. ASPIRATION の COOLING DOWN（意欲の冷却効果）

学びたい意欲を冷ます言葉、足をひっぱる言葉、かけられた経験はないだろうか。

最近聞いた、女子高校生の娘さんがいるお母さんの言葉を思い出した。

「うちは女の子だから短大で充分」「女の子だから自宅から通えるところがいい」

私より随分年下のお母さんだ。驚いた。男子には投資するが、女子には投資しない・・・そんな風潮、今はどうだろうか。

2. HIDDEN CURRICULUM（隠れたカリキュラム）

〇〇長は男子、副〇〇長は女子など、隠れた、隠された当たり前はないだろうか。

GENDERを再生産するためにやってきた、隠れたカリキュラム。

東京五輪組織委員会が起こった今回の会長辞任に至るプロセスは、GENDERへの関心・意識を一気に集める

ことになった。これからを生きる人たちへの隠れたカリキュラムはないほうがいい。

2020 年 12 月 25 日、閣議決定された今後 5 年間の女性政策をまとめた男女共同参画基本計画から「夫婦別姓」という文言が削除され、指導的地位に占める女性割合「2030」も「2020 年代のできるだけ早いうちに…」と後退。行く先の見通しは厳しい。

上野先生が講義最後にくださったメッセージ。

例えば、家庭科の男女共修も、男女混合名簿もそれまでの当たり前を、先生たちが少しずつ闘って変えてきたことを忘れないでほしい。

（それまで男子は電気・機械、女子は被服・食物と男女別に授業を受けていたが、1993 年から中学校で、1994 年から高校で家庭科として男女共修となった）

「この程度のことで目くじらを立てるのか」と言われても、声を挙げ続けて少しずつ社会を変えてきたのだ。

今回の東京五輪組織委員会会長発言では、#「わきまえない女たち」は、性別を超えて多くの共感をよんだ。上野先生は中心となっている「がまんをしない」娘たちを育てた母親世代の功績は大きいと結んだ。

その上で、

GENDER 差別をしていることに気づけない人を変えるのは、年齢が高くなればなるほど難しい。大事なのは、「周囲の人たちが変わっていくこと」。

そして「おかしい」と感じたときは、「そのとき、その場で、イエローカード！」

めんどくさい女、わきまえない女が増えることで社会は変わる。

上野千鶴子先生といえば、日本の女性学のパイオニア。抵抗記事も目にするが、今もジェンダー問題の最前線で活動していらっしゃる。届けてくださる言葉はシンプルで、腑に落ちる。バックグラウンドに経験がある。

これからの世代に何を引き継ぎ、何を終わりにしたいのか。ずっと考え続ける問いをいただいた。小さなことから実践する。

今岡さんは「生きる」を支えるゲートキーパーの活動もされています。

<https://20210626gkt.peatix.com/>

最強の素人ゲートキーパー（生きる人を支援する人）になる！入門講座
～どこかで、だれもが、だれかの、ほっとする存在になれるはず～
社会貢献/地域活性社会課題 NPO ソーシャルビジネス
2021/6/26（土）13 時～16 時オンライン ¥3000



ふれあい助成金事業

関西 CAP 交流会

子どもの権利条約日本批准から今と、SDGs
～子どもが安心できる社会をめざして～

子どもの頃、みなさんは「子どもの権利」という言葉を、知っていましたか？

私はそのような言葉は、聞いたこともない子どもでした（半世紀近く前です）。今の子どもたちはどうでしょう。またおとなは、どうでしょうか。私たちは、CAP（子どもへの暴力防止）プログラムを小中学校に届けています。出会った子どもたちから「自分に権利があるということを、初めて知った」という言葉を聴きます。2021 年は日本で子どもの権利条約が批准されて 27 年を迎えます。しかし、なかなか周知されていないのはなぜか？！世界と日本の現状と今後を学び、「子どもの権利条約」を広げるために、堺市「ふれあい助成金」により、平野裕二さんと富田久子さんのお二人をお招きし、関西の CAP スペシャリストと一般参加のみなさんで一緒に「子どもの権利」について学びました。（zoom 開催）

平野裕二さんから 子どもに関する国際的目標と取り組み等について

1989年 国連総会で「子どもの権利条約」の採択
1990年 発効
1994年 日本で批准

1990 年 子どものための世界サミット→「子どもの生存、保護および発達に関する世界宣言」

2002 年 国連子ども特別総会
→「子どもにふさわしい世界（A World Fit for Children）」に向けて、子どものためにかつ子どもとともに世界を変えていく

2000 年 MDGs ミレニアム開発目標
2015 年 SDGs 持続可能な開発目標

2019 年 児童虐待防止法
2020 年 体罰を全面禁止する 59 番めの国となる



（＊1）子どもの権利と新型コロナ

国連は、子どもの権利条約が批准された国において、条約の実施に問題がないか監視し、定期的に審査されています。日本では 1998 年第 1 回、2004 年第 2 回の審査で、少年法改正について「子どもにふさわしい手続き」になっていないと勧告をうけています。また、新型コロナウイルス感染に関する声明も出されています（11 項目・パンデミックが子どもの権利に及ぼすさまざまな影響を考慮し、子どもに正確な情報をやさしく伝える）その声明を紹介する絵本も佛教大長瀬正子教授により出版されています。（＊1）

日本では民間レベルでの取り組みが進んでいる反面、一番子どもの

権利尊重が遅れているのは、学校であるという悲しい現実と、社会の競争的性質から、「国家にとって利益を生む子どもを、どう育てるか」ということに、価値を求めてしまっていることも問題であることも知りました。子どもの権利条約を守って、子どもの権利保障をしていくためには、私たち一人ひとりも意識をして常に整備をし続けることが不可欠です。

富田久子さんからお聞きしたこと

富田久子さんからは、教育現場や地域等、身近なところでの子どもへのエンパワメントの関わりのお話をいただきました。地域のおとなや教師として、目の前の子どもへの声かけ一つにも大きな影響があることを身近な事例から考え、自分自身を振り返る機会となりました。どうするか、どう声掛けするか、ポイントはやはり「主体は子ども」ということです。「子どもはランドセルに教科書だけではなく、家庭事情を詰め込んで学校に来る」「【困った子・親】ではなく、【困っている子・親】である」気持ちをしかりと聴き、向き合うことが大事だと感じました。富田さんの言葉でもう一つ、「子どもが暮らしやすい町、それは弱い立場や苦しい立場の人が暮らしやすい町となる」とありました。どんな社会を作っていくのか、どんなおとなを増やしていくのか。権利を大切にされて育った子どもがどんなおとなになるか、言うまでもありません。

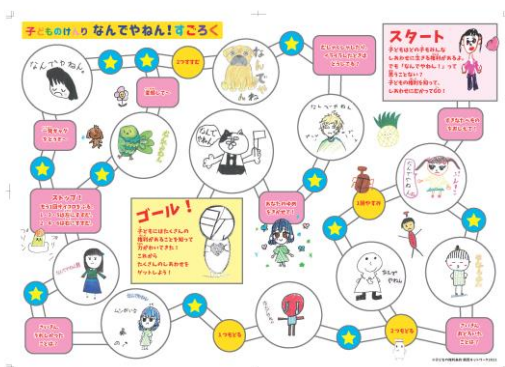


トークセッション

子どもの権利すごろく

最後に、子どもの権利すごろく「なんでやねん！すごろく」の紹介と実演をしました。子どもが、自分自身が権利の主体であることを知り、自分らしく生きることができるように、子どもの権利を楽しく学び、おとなと子どもと一緒に考えます。ネットでの販売もされています。（＊２）

1990 年以來、子どもの権利を守るための行動目標を掲げ、子どもを取り巻く状況は改善されてきていますが、それでも取り残されている子どもはいます。子どもにフィットする社会、子どもにとって望ましい社会にはまだまだ程遠いと感じるときもあります。あきらめず、子どもとともに変えるために、世界レベル・地域レベル・学校レベルでのさらなる取り組みと意識向上が必要だと痛感しました。（ホリグチ博子）



「子どものけんり なんでやねん！すごろく」の頒布価格

●1 セット 2,000 円（税込み）6 セット以上は送料無料、
学校や地域、子どもの居場所でご活用ください
申し込みフォーム

<https://forms.gle/WYhoNJR89yZvXdR17>

詳しくは子どもの権利条約関西ネットワークホームページにて

（＊２）なんでやねん！すごろく

えんぱわめんと堺・子育てひろばスタッフ合同研修
「愛着障害と発達障害の理解と支援」
和歌山大学教育学部 米澤好史先生

2021年2月14日和歌山大学教育学部 米澤好史先生をお迎えして「愛着障害と発達障害の理解と支援」と題して研修をしていただきました。

コロナ禍の研修ということで、対面ではなくリモート開催でお願いしました。

機材のセッティングやWi-Fi環境を整える準備にメンバー総動員。

そして、バタバタのリハーサルでしたが、にこやかな米澤先生の笑顔で落ち着きを取り戻し、研修スタートです。

私は、子育てひろばに関わらせてもらう日々の中で、乳幼児の子どもたちと、保護者の方々にどれだけ寄り添えているのか、エンパワメントの関わりができているのかと悩むことも多く、スタッフ同士で話し合いを重ねても、次々と展開する子どもたちの行動の対応について、ゴールにたどり着けずモヤモヤが晴れないことがありました。

当日は、そんな自分に何か手がかり、ヒントがあるはず！と楽しみで意気揚々と参加しましたが・・・

☆間違った愛着障害の理解

- ①施設、虐待だけに特有 ②産んだ、育てた親のせい
- ③取り戻せない、手遅れ ④親にしか形成・修復は無理

とのお話に、「愛着障害」に対して、自分勝手なイメージを当てはめ間違った理解をしていたのだと、自分を省みるところから始まりました。

米澤先生は、愛着障害についての概念がないため、専門家でも混同し誤解や誤った診断がおこる。ニーズと支援のミスマッチを防ぐ実践や見極めが必要であると。

そして、愛着障害は、誰にでも起こりうること。だれかのせいではなく、関係性の障害で相性のこと。臨海期、敏感期は関係なく、いつからでも取り戻せ、誰にでも形成・修復可能だと、正しい理解と希望や可能性をお話くださいました。

また、特に印象的だったのは、「愛着形成のための3つの基地機能」についてです。3つの感情機能が発達することで、愛着が形成されます。

①安全基地（ネガティブな感情から守る）

- ・「人見知り」は、この人は守ってくれると理解し、安全基地を作るチャンス。

②安心基地（ポジティブな感情を生じさせる）

- ・この人といると居心地がいい・いい気持ちや元気になるようなひと。

③探索基地（基地からはなれ帰ってきた時に報告）

- ・楽しかった（悲しかった）ことを報告したくなる。

例えば、安全安心な人に、楽しかった（悲しかった）ことを報告。



気持ちを分かち合った、共有したことで、楽しい気持ちが倍増する。

ポジティブな感情は増え、ネガティブな感情は減る。



「認められた」の経験が意欲の源泉となり、能力や学力の向上につながり、さらに意欲を高めることになる。

逆に、安全安心がないと自分で自分を守るしかなく、攻撃の行動としてあらわれる。そして、認められない間違っただかかわりを受けると、対人トラブルや、安全安心探索基地を探し求めて、ゲームなどの依存症やトラウマ障害などの二次障害を表すことになるとお話いただきました。

改めて、その瞬間その時々関わりの大切さや影響を痛感しました。そして、子どもたちだけでなく保護者の方々へ、根拠を持った言葉や声かけの引き出しが増えました。

中身の詰まったアッという間の2時間が過ぎ、質疑応答の貴重な機会に質問が止まらず、時間超過になってしまいましたが、最後まで丁寧に答えてくださいました。参加したメンバーが、それぞれ活動している場で、明日から取り組みそうな具体的なアドバイスを聴いているうちに、私も早く子どもたちや保護者の方に会って、心地よい関わりをつながたい気持ちに駆られました。

そして、今後も子どもたちが表す、見えている部分だけの行動だけで判断するのではなく、決めつけず、日々の関わりを大切にしていきたいと思います。

私達にも希望と可能性を、ありがとうございました。まだまだ学びは続きます。

（さこちゃん）

★文字は米澤先生の資料に基づいて表記しています。

〈米澤先生ご紹介の著書〉

「やさしくわかる！愛着障害」
理解を深め、支援の基本を押さえる
ほんの森出版 1800 円＋税



「愛着障害・愛着の問題を抱える子どもをどう理解し、どう支援するか？」
アセスメントと具体的支援のポイント 51
福村出版 1800 円＋税



J-Coin 助成金事業

パブリックリソース財団の J-Coin 基金助成を受け、新型コロナウイルス感染症及び感染拡大防止の影響を受けている子どもたち、さらにアフターコロナに向けての地域活性化への取り組みとして、「障がいのある子どもへのいじめ・虐待予防とエンパワメント事業」を実施しました。

コロナ禍の生活で障がいのある子どもはもちろんのこと、子どもに関わるおとなも不安を抱えたり、どのように対処したらいいか戸惑う日々。

子どももおとなも自分を大切に思え、安心感につなげたいと考え、ワークショップを実施しました。約 150 人にワークショップを届けることが出来ました。

また、ステイホームが続く時にも、楽しみながら活用してもらえるように、DVD と冊子も作成しました。いま、子どもの生きる力を育むおとなの専門性を高めていくことが、社会の持続可能な地域の安心安全につながると考えます。今後も、子ども・おとなへのワークショップをエンパワメントの関わりで継続し、子どもの人権尊重が定着する社会をめざしていきます。

★子どもワークショップ

「感情のあつかい」「境界線」「コミュニケーション」を中心にワークショップを展開。連続講座で、繰り返し実施することで、子どもたちが心を開き、本音に近づくことができました。

関係性を築くためにコミュニケーションを図り、自然な子どもの姿から見えてくる課題に対して、2 回目以降課題改善のためのプログラムを実施しました。

「次はいつ来るの?」と楽しみにしてくれた声や、学んだことをすぐに使ってくれたと嬉しい声も聞きました。



★おとなワークショップ

「アンガーマネジメント」を中心に、保護者や放課後等デイサービスのスタッフの方にワークショップを展開。子どもワークショップと並行して実施したことで、一時的な子どもへの関りでなく、継続して課題に向き合う姿勢や、一人ひとりが前向きに取り組んでくださいました。

★DVD と小冊子作成

えんぱわめんと堺、初取り組み!! 3 日間スタジオに通って、撮影しました。

「感情編」「境界線編」「コミュニケーション編」がそれぞれ少しずつ発展していくプログラム構成になっています。

DVD は子どもとおとなと一緒に視聴して声掛けをしながら楽しんで学べるものが出来上がりました♪

冊子には DVD のポイントなども詳しく書いています。

キャラクターも登場するよ♪ あいのっちが出演しているよ♪

*ご興味のある方は事務局までお問い合わせください。



(しおざき)

CAP 活動報告(2020 年 10 月～2021 年 3 月)

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校 数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数		
10 月	23	55	1648	0	0	0	2	8	285	25 (25)	94 (94)
11 月	13	28	924	0	0	0	1	4	146	14 (14)	49 (49)
12 月	10	33	1113	0	0	0	1	2	77	11 (11)	55 (55)
1 月	4	12	440	2	2	50	1	7	268	7 (7)	31 (31)
2 月	5	19	612	0	0	0	2	8	300	7 (7)	40 (40)
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0)	16 (0)
合計	55	147	4737	2	2	50	7	29	1076	65 (64)	279 (263)

* SNP プログラム 12 月 支援学校 1 校 2 ワーク 50 名

SNP（障がいのある子どもへの CAP プログラム）の 1 ワークは堺市市民活動支援基金指定寄附にて実施しました。



一般財団法人大阪府人権協会より助成金が採択されました！

【一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）より休眠預金など活用法に基づく助成金の資金分配団体の選定を受け、「人権 NPO 協働助成金」として公募されたもの】

えんばわめんと堺では、「子どもとおとなのエンパワメント事業」として、子どもが誰ひとり取り残されることのない、一人ひとりが安心して過ごせる、人権尊重意識が定着する社会をめざして 2021 年度より 3 年間取り組んでいきます。

3 年間だからこそチャレンジし、社会変化を生み出すために、動いていきます。

詳細は「ES の樹」や HP や Facebook でお伝えしていきます。

NPO 法人場とつながりの研究センターさん発行の

【子ども・若者の声を聴くためのハンドブック

新型コロナウイルスそのとき「現場」はどう動いたかー】に

当団体の代表 北野真由美が第 4 回ユースワーク研究会公開学習会で講演した内容が、掲載されています。2020 年春に緊急事態宣言を受けて、堺市で「休校中の子どもたちへ」とポスター掲示をして、おとなと子どものつながりを作ることになったことが書かれています。

https://batotsunagari.net/youthwork_handbook2021/ (左記 URL よりダウンロードできます)

第19回 ES総会&イベント ご案内

☆日時： 2021年5月22日(土)

総会-13:15~14:00 イベント-14:15~16:30

☆場所： 堺市産業振興センター セミナー室5

☆イベント内容：エンパワメントで力を取りもどす～社会とわたし～

講師 市場恵子さん(社会心理学講師・心理カウンセラー)

大塚愛さん(岡山県議会議員・大工)

心温まるお二人をお迎えしています、みんなで力を取り戻そう♪

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円(入会金なし)

◎ 更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。

◎ 会員有効期間は1年です。

◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 27名

賛助会員 56名(71口)

寄附金 85,500円

2021年3月現在

ESの活動はみなさまからの寄付、
ご支援にささえられております。
今後ともよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺/ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

ホームページやFacebookも見てね

<https://www.npo-es.org/>

編集後記 今春、下の子どもが社会人になった。仕事で関西を離れる友だちの送別会ができないからと、引っ越し日に友だちが通る道沿いの駐車場で「がんばれよー」と書いた横断幕を車につけて見送ったらしい。見送る子も見送られる子も泣きながら大笑いしたそう。やっぱり対面がいい!と感じた。

1年前、コロナによる感染の不安や社会の変化に戸惑った。今も不安はあるけれど、気持ちの持ちようはずいぶん変わったなと思うし、オンラインでの会議や講演会も出来るようになった。でも、実際に会ってどうでもいいような話をして、ゲラゲラ笑うのは、やっぱりうれしい。心の免疫力が上がるなあと思う。去年と今年はいつもにも増して、若い人たちにエールを送りたい春です。(しおざき)

